

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・**実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の主体的な学習を推進し基礎学力の向上と、思考力・判断力・表現力を育む取組みを充実させる。</p> <p>②情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力を養成する。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。</p> <p>①各教科間の連携を図り、指導と評価の一体化の視点から評価方法の工夫・改善の取組みを推進する。</p>	<p>①各HR教室に設置されているプロジェクターの効果的な使用方法や一人一台端末の活用について、更なる研究を進める。</p> <p>①公開研究授業等で各教科の単元(題材)の指導と評価について、協議することで、指導と評価の工夫改善を図る。</p>	<p>①「生徒による授業評価」の肯定的な回答の割合が高かったか。高めるための工夫はできたか。</p> <p>①タブレット端末などICTを効果的に使用できる環境の整備ができたか。また具体的な活用方法について研究できたか。ICTを活用した授業に対する生徒の満足度は高いか。</p> <p>①評価方法について工夫・改善が進んだか。</p>	<p>①各HR教室に設置されているプロジェクターの効果的な使用方法や一人一台端末の活用について、ロイロノートなど更なる研究を進めた。</p> <p>①公開研究授業等で各教科の単元(題材)の指導と評価について、協議し指導と評価の工夫改善を図った。</p>	<p>①生徒の経済的負担及び教員の教材作成負担の低減など課題は多いが、情報技術以外にも問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力を養成する。</p> <p>①公開研究授業等で各教科の単元(題材)の指導と評価について、今後も協議し指導と評価の工夫改善を図る。</p>	<p>①各教室に設置されている情報機器や、タブレット端末の効果的な使用方法を研究したことは評価できるが、評価の観点として「生徒による授業評価」や「生徒の満足度」を利用することになっているので、その状況について達成状況に記載してほしい。</p> <p>①ITリテラシー教育は、集団で同じことを行うだけでなく、個別の発想をいかに導き出すかが課題。是非、生徒一人一人の個性を大事にする授業をお願いする。</p> <p>①生徒には柔らかな頭があるので一緒に協議しながら様々なやり方に取り組んでください。</p>	<p>①各HR教室に設置されている情報機器の効果的な使用方法や、一人一台端末の活用について更なる研究を進めてきたが、その取組状況については、達成状況を踏まえて評価する必要がある。</p> <p>①ITリテラシー教育は、集団で同じ内容を扱い授業運営を充実させるだけでなく、生徒一人ひとりの個別の発想をいかに引き出すかが課題である。</p>	<p>①「生徒による授業評価」や「生徒の満足度」を活用し、その結果を踏まえて達成状況を評価する。</p> <p>①生徒一人ひとりの個別の発想をいかに引き出すかを踏まえたITリテラシー教育を基盤とし、生徒の個性を大切に授業を実践する。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒会活動や部活動の充実により、豊かな人間性の育成を図る。</p> <p>②生徒に基本的な生活習慣の確立と社会人としてのモラルを身に付けるための指導を充実させる。</p> <p>③教育相談体制を活用することで生徒理解に努め、生徒が安心して学べる安全な学校づくりを進める。</p>	<p>①生徒会等の諸活動を通じて、考える力を備えた人材育成を目指す。</p> <p>②基本的な生活習慣を根幹とした指導体制の見直しを進め、生徒一人ひとりに寄り添った人間教育を目指す。また、進路実現に向けた意識改革を促し、日常から実践させる。さらに、下校指導を行い、社会生活に必要なモラルの教育を図る。</p>	<p>①生徒自らが主体的に参加する活動において、一緒に目的を考え、明確にし、その意義を見出す。</p> <p>②引き続き、身だしなみ指導及び、遅刻指導を重点指導項目として定め、特に進路実現に向けた意識を持たせる声掛けを常に全職員で行えるよう努める。下校指導時に声掛けを行い、地域社会との共生を生徒に意識づける。</p>	<p>①活動に伴う課題を解決し、効果的に実施することができたか。活動に対する生徒の満足度は高いか。</p> <p>②年間を通した身だしなみ指導対象者及び、遅刻指導対象者、近隣からの連絡数の推移は減少しているか。</p>	<p>①文化祭では、生徒主体で企画・準備を進め、質の高い動画作成や来場者参加型の企画など、来場者を楽しんでもらうための多様な取組が見られた。</p> <p>②今年度より、昼休みの立ち番指導を見直し、教室棟の巡回に重点をおいて行った。さらに校内巡回を増やすことで、継続した身だしなみ指導に繋げることができた。遅刻指導については、定期的に登校時間に正門での声掛けを行った。また、各学期に遅刻指導を行い、遅刻者の減少に注力した。さらに、下校時についても不定期ではあるが通学路に立ち、下校指導を行った。近隣からの連絡数は昨年並みであった。</p>	<p>①より多くの成功体験を積むことが必要である。生徒が自信をもって生徒会、委員会、部活動等へ、主体的にかかわれるように支援する。</p> <p>②生徒一人ひとりの置かれている状況等が多様化しており、基本的な生活習慣の確立や身だしなみに気を配れない生徒が増えている。学校としての指導・支援を見直す必要がある。</p>	<p>①先生方の指導の下、文化祭で主体的に多様な取り組みが見られた点については、評価できる。できれば評価の視点に書かれている生徒の満足度について、言及して欲しい。</p> <p>①自発性を養う意味でも文化祭は素晴らしい行事ですが、ONとOFFの指導もしてほしい。</p> <p>①保護者、周辺地域の方、森中学校の生徒にとっても磯子工業高校の現状を理解する良い行事だと思います。今後も開催を継続願います。</p> <p>②忙しい中、立ち番や巡回を増やしたいということで、近隣からの連絡数は変わらなかったとはいえ、良い影響があるはずなので、継続を期待している。</p> <p>②町内会として定期的に道路清掃、パトロールを実施しているが、通学路がきれいになっていること、帰宅の生徒が挨拶してくれることなどから生徒が</p>	<p>①生徒会は定例会で連携を密にし、各種行事の無事故運営に貢献した。今後は、生徒会の取組が学校全体へさらに浸透し、より多くの生徒が諸活動に参加することが望まれる。</p> <p>②校内巡回指導および下校指導を増やしたことで一定の効果は見られたが、満足することなく引き続き指導を継続したい。遅刻者への対応については、次年度に向けて改善策を検討していく。</p>	<p>①生徒会・委員会・部活動・同好会について、生徒一人ひとりが主体的に課題設定や課題解決、改善提案ができるよう、対話を継続して支援する。</p> <p>②校内巡回指導については継続して実施し、下校指導については定期的に行えるよう調整を進める。遅刻指導については、従来の指導に加えて生徒へのヒアリングを重視し、指導だけでなく支援の観点からも取り組んでいく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
								規律正しくなっている感じをうけた。		
3	進路指導・支援	①自らの進路について、自己啓発の機会を設け、将来像を創造することのできる人物を創る。 ①自らのキャリア設計を行わせ、将来に必要な資格・検定試験や就業体験に取り組みさせるなど、キャリア形成を目指す。	①自らの進路を考えるとともに、相談や情報収集から総合的に判断し、行動する力を育成する。 ②生徒が主体的にキャリア設計できるように、資格検定取得やデュアルシステム、インターンシップの事業を充実させる。	①進路について、複数の情報源を設け活用させることで、自ら判断し啓発する機会を与える。人任せにせず「今、自分が何をすべきか」を気付かせ行動させる。 ②工業4科の協力企業にデュアルシステムやインターンシップ事業を依頼する。就業体験を通じ、生徒に地域産業を担う人材としての自覚を促す。	①進路活動において、自ら情報収集し、目標を見つけ自己実現に繋がられたか。 ②生徒の報告書や協力企業からのアンケート結果から、両者の満足度は高いか。また、キャリア教育として進路活動につながられたか。	①外部業者に頼らない磯工独自の、求人票検索システムを立ち上げ、各自の端末より閲覧を可能とした。 ①キャリアパスポートを学年毎に、目標から振り返りまでを行う機会を作った。 ②資格検定取得の事業を充実させ、ジュニアマイスターゴール5名、シルバー4名、ブロンズ4名を輩出した。就業体験事業では、ディアルシステム15名、インターンシップ93名が参加し、事業を充実することができた。	①学校独自の検索システムを、更に煮詰め使いやすくする。 ①進路選択のミスマッチを、防止すべく自らの進路活動を、俯瞰させる進路活動方法を構築する。 ②インターンシップへの参加者が昨年度比較で33名増だったが、申し込んだ生徒に体調不良欠席者が出て、協力企業の受け入れに迷惑をかけた。健康管理含め、本事業の意義を徹底指導する。	①求人票検索システムを立ち上げ、各自のタブレットから検索できるようになったことは、機会喪失の最小化に繋がることから、今後の活用にも期待したい。 ①生徒と会社のマッチングの為に、インターンシップ等、協力できることはしっかり協力していきたい。 ②資格検定取得事業の拡充について、実数での改善が記載されており高く評価できる。	① 学校や家庭での検索が可能となったことで、進路について話し合う機会が増え、生徒の進路意識の向上が見られた。 ① 求人票の処理時間については、大幅な短縮が実現した。 ② クレーン運転、フォークリフト運転などの各種技能講習会には、延べ130名が修了した。資格取得に意欲的な生徒が増えており、資格や講習の種類を紹介し、より一層推進していく必要がある。	① 検索項目の精査を行い、生徒の視点に立った使いやすさの向上を図る。 ① 求人票の処理方法についてマニュアルを作成し、作業のムダを明確化することで、処理のさらなる効率化を図る。 ② インターンシップ、デュアルシステム、各種講習会や検定試験への挑戦は、進路活動に大きな影響を与える。また、今年度は本校のマイスター顕彰制度が整備された。生徒の理解と認識を高めるため、丁寧な説明を継続して行う。
4	地域等との協働	①家庭や地域、小・中学校、総合学科高校等と連携を通して、専門教育への理解を図るとともに本校の魅力・特色の発信を行う。 ②地域に開かれ、地域とともにある学校づくりを進める。	①中学校に対し本校の魅力・特色の発信を強化する。 ②地域に開かれ、地域とともにある学校づくりを進める。	①中学校への進路説明会にはできる限り出席し、本校の学校活動や専門教科の取組をPRする。 ①HPやSNSで本校の学校活動や専門教科の取組をPRする。	①中学校で実施される進路説明会への出席回数。 ①HP、SNSでの発信回数。	①中学校への出張説明会の回数は7回だった。 ①HP、SNSの発信については、イベントや日々の授業など定期的にできた。 →結果、受検者数の大幅な増加につながった。	①女子の入学希望者の増加を意識して取り組んだが、効果はなかった。来年度は新制服の広報と合わせて、新たな施策を検討する。 ①化学科以外は定員に近い数の希望者があった。来年度、特に化学科の入学希望者数の増加を目指す。	①実際に受検者増に繋がる形でSNSなどの発信ができたことについて、高く評価できる。制服も変わるということなので、相乗効果を狙った発信を期待したい。 ①中学校への出張説明会は有効な活動と考える。次年度も積極的に取り組んでほしい。また、女子および化学科の入学希望者数増加についても次年度引き続き継続課題として取り組んでほしい。	①各種広報活動によって受検者増につながったことは、成果であった。課題は、継続的であること、化学科はまだ大幅に定員に達していないこと、女子生徒が少ないことと考える。	①今後も安定的な受検者確保のため、特に近隣の中学校を中心に積極的な広報活動を続けていく。課題に対しては、化学科等と連携しながら女子生徒にも本校の魅力を伝えることができる広報を検討し、推進する。
5	学校管理 学校運営	①不祥事防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力の向上を図る。 ②生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化するとともに、地域と連携した災害時の体制整備を進める。	①働き方改革を進め、職場の風通しを良くし、事故・不祥事防止意識を高める取組の充実を推進する。 ②生徒の防災及び防犯意識の向上を図り、有事の際の行動力を高める。	①事故不祥事防止について具体的な事例を取り上げ、様々な工夫を凝らし効果的な研修を行う。 ②地震などの災害や火災を想定した訓練等を通じて、防災意識及び非常事における判断力及び行動力を高める。	①事故不祥事防止に係る研修を実施し、事故不祥事ゼロを継続できたか。 ②地震などの災害や火災を想定した訓練を実施できたか。また、防災意識及び非常時における判断力及び行動力を高めることができたか。	①毎月の企画会議で不祥事防止会議、職員会議で不祥事防止研修を実施し、不祥事防止意識を高め、不祥事を未然に防ぐ職場の雰囲気づくりに努めることができた。 ②1年生の代表生徒による放水訓練の実施。2・3学年は、火災を想定した避難訓練を実施し、避難経路の確認、生徒を引率しての集合場所での時間計測を行なった。おおむね速やかに避難することができた。また、有事の際の行動力を高めることができた。	①不祥事の原因の一つである職員の個々のストレスの軽減に向けた方策が十分ではなかった。ストレスチェックなどから傾向を分析し、対策を施したい。 ②放水訓練は、引き続き消防局の方と地域の方々と連携して実施していきたい。東日本大震災から15年を迎えたことあり、忘れずに大震災の内容を伝え、防災意識の高める取り組みを継続していきたい。	①事故不祥事が発生しなかったという結果そのものが、高く評価できる。 ①教師の不祥事が多く報道されているが、磯子工業高校では発生させないよう職員同士の良好なコミュニケーションを図ってほしい。 ②速やかに避難できたことは、普段からの生徒への動機づけの賜物である。引き続き生徒の命を守る取り組みの継続を期待したい。 ②今年の放水訓練は水圧不足で水の出が悪かった。次年度はポンプを運転し十分な水圧で放水訓練を実施してほしい。	①具体的事例を用いた研修や、毎月の不祥事防止会議・職員会議での継続的な研修を通して職員の意識を高め、職場全体で未然防止の雰囲気づくりに努めた結果、今年度は事故・不祥事ゼロを達成することができた。 ②放水訓練を地区町内会および磯子消防署杉田出張所と連携して実施した。火災を想定した訓練を通じて、防災意識を高めるとともに、非常時における判断力および行動力の向上を図ることができた。	①職員のストレス軽減に向けた取組が不十分であり、組織的なケアの強化が課題である。また、職員間のコミュニケーション向上や、研修内容の実践性を高める必要がある。社会的状況を踏まえると、風通しの良い職場づくりが一層求められる。 ②放水訓練については、ご指摘のとおり水圧不足により、3階まで届かない状況での訓練となった。次年度は、消防署員との連携をより密にし、適切な体制で放水訓練を実施したい。